

2020 年 8 月 7 日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR 部

2021 年 3 月期第 1 四半期説明会(電話会議)発表要旨 (2020 年 8 月 6 日開催)

2020年8月6日に開催致しました2021年3月期第1四半期決算説明会(電話会議)において、弊社の発表内容の要旨を以下にまとめております。

【決算概要】

1. ハイライト

- 純利益 45 億円、2020 年 3 月期第 1 四半期(前年同期)実績 23 億円比約 2 倍の増益。
- リスクマネジメントを徹底し、手持ち案件を着実に遂行している。
- 米国大型 LNG 案件の内、フリーポート LNG は全系列で商業運転を開始済み。キャメロン LNG は第 1・2 系列で商業運転を開始済み、第 3 系列は 7 月 31 日に完工、顧客に引き渡しを完了し、商業運転開始に向け準備中。
- その他の案件は、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を講じて、ワーカーをはじめ関係者の安全・安心を最優先し、慎重に遂行中。顧客と EPC 契約上のフォースマジュール(不可抗力条項)の枠組みに沿って、工期とコストへの影響をミニマイズすべく協議を続けている。
- 受注については、主なターゲット案件は本年度後半に最終投資決定(FID)となる可能性が高く、確実に受注していくことを目指す。

2. 損益計算書

- 完成工事高は 655 億円、前年度同期比より 209 億円の減収。キャメロン LNG、フリーポート LNG が最終盤にあり、両案件の完成工事高が減少しているため。
- 完成工事総利益は 83 億円、完成工事利益率 12.6%。手持ち案件の着実な遂行に加えて、米国 LNG 案件での損益改善が寄与。
- 販管費は 30 億円、前年同期比 10 億円減少。多岐にわたる項目でのコスト削減が着実に成果を上げてきている。
- 純利益は 45 億円。

3. 利益要因分析

- 第 1 四半期の完成工事総利益 83 億円の内訳は、エネルギー分野 66 億円(80%)、地球環

境分野 17 億円(20%)。地球環境分野の比率が伸びている。地球環境分野は安定収益のベースロードとなっており、この分野を伸ばしていくことで収益構造の変革を目指していく。

- 営業外損益はマイナス 5 億円、前年同期比マイナス 54 億円から大きく減少。外貨建債権・資産の為替ヘッジ対策を進めたことにより、為替差損が大きく減少。
- 以上の結果及び販管費の削減も寄与して、純利益は 45 億円を積み上げ。

4. バランスシート

- 現金・預金等は 2020 年 6 月末で 1,005 億円を保有、手元流動性を確保している。
- 工事損失引当金は 273 億円、前年同期比 76 億円減少。手持ちの赤字工事が減少したため。
- 自己資本は 2020 年 6 月末で 291 億円、自己資本比率は 8.2%に向上。今後も利益を着実に積み上げ、中期経営計画(再生計画)で目標としている自己資本比率 20%以上の早期達成を目指す。

5. 受注高・受注残高

- 第 1 四半期の受注高は 231 億円。競争優位性と実現度が高い案件をターゲットとし、確実に受注することを目指す。
- エネルギー分野では、カタール LNG 拡張案件、インドネシア銅製錬案件等。この 2 案件の最終投資決定(FID)は本年度後半の予定。顧客から当社の受注が期待されている案件でもあり、確実に受注出来るよう準備を進める。
- 地球環境分野では、再生可能エネルギー、医薬ライフサイエンス、既設の保守・改修といった案件の受注を積み上げていく。

6. 業績予想

- 新型コロナウイルス感染症拡大による影響が今後著しく悪化しないとの想定で、合理的に算出した影響額を織り込んで通期業績予想を見通している。
- 完成工事高 2,800 億円、完成工事総利益 260 億円、完成工事総利益率 9.3%。引き続き、手持ち案件を着実に遂行することで、完成工事利益率 9%台の利益水準を確保する。
- 販管費 150 億円。中期経営計画(再生計画)での販管費削減目標額と同額、達成を目指す。
- 営業利益以下では損益に影響する大きな要因は見込んでおらず、純利益 70 億円。
- 受注高はターゲット案件を確実に受注することで 6,500 億円を目指す。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。